

みずほマーケット・トピック(2014年12月22日)

ECB 理事会、輪番制の解説

2015年1月1日のリトアニア加盟を以てユーロ圏は19か国となり、これに合わせてECB理事会は輪番制の導入をスタートする(1月22日理事会よりスタート)。導入が迫った輪番制に関し、本欄ではその規定や考え方を簡単に整理しておきたい。注目されるドイツ抜きでの理事会は5月と10月に開催され、現地メディアを中心に「ドイツの居ぬ間に追加緩和」が取り沙汰される可能性などは一応警戒したい。ただ、投票権がなくとも議論には参加できる上、役員会6名の中にはドイツ出身のラウテンシュレーガー理事が含まれるため、完全にドイツ色が消えることはない。輪番制導入により必ずしも全加盟国に発言権が与えられる環境ではなくなり、各国利益ではなくユーロ圏の利益のための中央銀行としての色彩が一段と強まることになる。

～2015年1月より輪番制がスタート～

2015年1月にリトアニアが19番目のユーロ加盟国として加入する。リトアニア自体は超小国であり、その経済・金融面のインパクトを論じるには及ばない。しかし、リトアニア加盟により19か国となることで、ECB政策理事会(以下単に理事会、Governing Council)における投票方法が輪番制へと移行する点は重要である。遡ること2003年、EUはECB理事会の意思決定を効率化するという観点から、ユーロ加盟国が18か国を超えた段階で輪番制を導入することを決定しており、リトアニア加盟がこのトリガーとなる。2014年9月18日、ECBは正式に輪番制への意向を表明している¹(なお、後述するように正確には15か国を超えた時点で輪番制移行が予定されたが、調整措置として延期されている経緯がある)。

現状、理事会は、正副総裁2名と4名の常任理事の6名からなる役員会(Executive Board)とユーロ加盟各国の中央銀行総裁18名(2014年12月現在)から構成される。周知の通り、現在の理事会の意思決定は計24名全員に投票権が与えられており、多数決により意思決定が行われる。24票の投票権は、日銀金融政策決定会合の9票(総裁1名、副総裁2名、審議員6名)や連邦公開市場委員会(FOMC)の12票(議長1名、副議長1名、理事5名、地区連銀総裁5名)と比べても明らかに多く、効率的な意思決定という観点に照らせば構造的な問題を抱えている。11月に理事会の内部分裂が報じられたのはその象徴的な出来事だったと言える²、恐らく年明け早々に議論ないし決定が行われる国債を対象とする量的緩和(QE)においても相応の衝突があるはずだ。

本来、ECBはユーロ加盟国が15か国を超えた時点で輪番制を導入するはずだった。要するに、2009年1月にスロバキアが加盟し、16か国体制となった時点で輪番制が導入される予定であった。しかしながら、「加盟国が18か国を超えるまでは(=19か国以上になるまでは)、一時的な調整

¹ 18 September 2014 - ECB announces first list of governors subject to voting rotation

² 2014年11月5日付ロイター報道『ユーロ圏中銀総裁、ECB総裁の運営方法に不満』。

(temporary adjustment)として、理事会メンバーの3分の2以上の賛成を以て輪番制を延期できる」というルールの下、2008年12月18日に延期が決定されている³。これは後述する「大国の投票頻度が小国の投票頻度を下回ることが無い」という原則を貫くための措置である。いずれにせよ、リニア加盟と共に19か国になる2015年からは輪番制が採用されることになり⁴、この措置に関しては「延期がされることはない」とECBサイトでも断言されている⁵。

～当面は2グループ制を採用～

具体的に、輪番制は加盟国が19～21か国の場合に採用される①2グループ制(The two-group rotation system、first stage)と22～27か国の場合に採用される②3グループ制(The three-group rotation system、second stage)がある。①と②の差は加盟国を2つに分けるか、3つに分けるかの差であり、どちらのシステムでも、加盟国に付与される投票権数は15票に制限される。この15票を分配するにあたって、「大国の投票頻度が小国の投票頻度を下回ることが無い」という原則を守り、しかも1票のウェイト(総投票数に占めるシェア÷配分票数)が全加盟国で等しくなるために、グループ分けが行われるのである(数字関係は後述で確認する)。当面は①の2グループ制が採用されることになり、将来的には②へ移行するタイミングもやってくることになるが、①から②へのシフトによって大国(1st group)が受ける影響はなく、中堅国(2nd group)の投票頻度が小国(3rd group)の登場によりやや低下するに過ぎない。

～グループ分けの方法～

グループ分けは経済規模と金融機関(以下 MFI : the Monetary Financial Institutions)の総資産規模を元に作成した合成指数(加重平均)で決められており、ウェイトは前者が5/6、後者が1/6とされている。2013年実績を元にこのランキングを作ったものが右表となる。1st groupに入る5か国は、ドイツ、フランス、イタリア、スペイン、オランダであり、これは今後も不変と思われる。図示されるように、基本的に2つの要素を合成した総合順位は名目GDPの順位に引きずられる傾向が強いが、アイルランドやルクセンブルグのように経済規模が小さい割に、巨大なMFI総資産の影響で上位に押し上げられている国もある。計測時点によっては、ルクセンブルグなど

ECB理事会輪番制を考慮する際のグループ分け

	国名	総合順位	名目GDP	MFI総資産
1st group	ドイツ	<1>	<1>	<2>
	フランス	<2>	<2>	<1>
	イタリア	<3>	<3>	<3>
	スペイン	<4>	<4>	<4>
	オランダ	<5>	<5>	<5>
2nd group	スウェーデン	<6>	<6>	<6>
	ベルギー	<7>	<8>	<8>
	ポーランド	<8>	<7>	<15>
	オーストリア	<9>	<9>	<10>
	デンマーク	<10>	<10>	<7>
	アイルランド	<11>	<14>	<9>
	フィンランド	<12>	<11>	<12>
	ギリシャ	<13>	<12>	<14>
	ポルトガル	<14>	<13>	<13>
	チェコ	<15>	<15>	<16>
	ルーマニア	<16>	<16>	<18>
	ルクセンブルグ	<17>	<19>	<11>
3rd group	ハンガリー	<18>	<17>	<17>
	スロバキア	<19>	<18>	<20>
	クロアチア	<20>	<20>	<21>
	ブルガリア	<21>	<21>	<23>
	スロベニア	<22>	<22>	<24>
	リニア	<23>	<23>	<26>
	ラトビア	<24>	<24>	<25>
	キプロス	<25>	<26>	<19>
エストニア	<26>	<25>	<27>	
マルタ	<27>	<27>	<22>	

(資料)ECB、Eurostat、数字は2013年末時点の実績を使用
『The European Central Bank: History, Role and Functions (2006)』

は経済規模において3rd groupに属する可能性もあるが(例えば2012年実績ならばルクセンブル

³ 18 December 2008 - ECB Governing Council decides to continue its current voting regime, ECB
⁴ 本欄の議論は『The European Central Bank: History, Role and Functions (2006)』を参照にしたもの。
⁵ Frequently Asked Questions on the rotation of voting rights in the Governing Council.

グの名目 GDP は 20 位で 3rd group である)、巨大な金融セクターを背景に理事会において大きな発言権を確保していることになる。なお、上記の議論は EU28 か国のうち、英国を除外したものである(英国がユーロに加盟することはない、との前提)。英国まで勘案すれば、1st group からオランダが弾き出され、玉突きでスロバキアが 3rd group に転落するが、これは現実的なシナリオではないとして本欄では想定しない。

～輪番制に係る数字関係～

下表が輪番制に係る数字関係をまとめたものである。上述したように、来年以降、加盟国数が 21 か国を超えるまでは 2 グループ制が採用されることになる。なお、2 グループ制が採用される場合、「1st group に 4 票、2nd group に 11 票」という前提になるが、16～18 か国の段階でこれを導入すると、「大国の投票頻度が小国の投票頻度を下回ることが無い」との原則が遵守できなくなってしまう。具体的には 16～18 か国の場合、1st group の投票頻度は 80% (4÷5) で固定される一方、2nd group は 16 か国で 100% (11÷11)、17 か国で 91.6% (11÷12)、18 か国で 84.6% (11÷13) となり、常に 2nd group の投票頻度が 1st group のそれを上回る。それゆえ調整措置として 16～18 か国つ

ECB理事会、2グループ・ローテーションシステム(1st stage rotation system)

ユーロ圏加盟国数(①+⑥)		16	17	18	19	20	21	22以上
1st group	中銀総裁数(①)	5	5	5	5	5	5	3グループ・ローテーションシステム(2nd stage rotation system)へ移行
	配分票数(②)	5	5	5	4	4	4	
	投票頻度(③=②÷①)	100%	100%	100%	80%	80%	80%	
	総投票数に占めるシェア(④=②÷⑫)	23.8%	23.8%	23.8%	19.0%	19.0%	19.0%	
	1票のウェイト(⑤=④÷②)	4.8%	4.8%	4.8%	4.8%	4.8%	4.8%	
2nd group	中銀総裁数(⑥)	11	12	13	14	15	16	
	配分票数(⑦)	10	10	10	11	11	11	
	投票頻度(⑧=⑦÷⑥)	91%	83%	77%	79%	73%	69%	
	総投票数に占めるシェア(⑨=⑦÷⑫)	47.6%	47.6%	47.6%	52.4%	52.4%	52.4%	
	1票のウェイト(⑩=⑨÷⑦)	4.8%	4.8%	4.8%	4.8%	4.8%	4.8%	
ECB役員会	正・副総裁+理事4名(⑪)	6	6	6	6	6	6	
総投票数(⑫=②+⑦+⑪)		21	21	21	21	21	21	

(資料)『The European Central Bank: History, Role and Functions(2006)』

【輪番ルールのポイント】

- ・ユーロ圏が19か国以上のケースから配分投票数に関し、「1st groupが4、2nd groupが11」となり、輪番がスタートする。
- ・投票頻度は必ず「1st group>2nd group」である。つまり、「③>⑧」である。
- ・1票のウェイトは常に平等である。つまり、「⑤や⑩の数字は全て同じ」である。

ECB理事会、3グループ・ローテーションシステム(2nd stage rotation system)

ユーロ圏加盟国数(①+⑥)		22	23	24	25	26	27
1st group	中銀総裁数(①)	5	5	5	5	5	5
	配分票数(②)	4	4	4	4	4	4
	投票頻度(③=②÷①)	80%	80%	80%	80%	80%	80%
	総投票数に占めるシェア(④=②÷⑰)	19.0%	19.0%	19.0%	19.0%	19.0%	19.0%
	1票のウェイト(⑤=④÷②)	4.8%	4.8%	4.8%	4.8%	4.8%	4.8%
2nd group	中銀総裁数(⑥)	11	12	13	14	15	16
	配分票数(⑦)	8	8	8	8	8	8
	投票頻度(⑧=⑦÷⑥)	73%	67%	62%	57%	53%	50%
	総投票数に占めるシェア(⑨=⑦÷⑰)	38.1%	38.1%	38.1%	38.1%	38.1%	38.1%
	1票のウェイト(⑩=⑨÷⑦)	4.8%	4.8%	4.8%	4.8%	4.8%	4.8%
3rd group	中銀総裁数(⑪)	6	6	6	6	6	6
	配分票数(⑫)	3	3	3	3	3	3
	投票頻度(⑬)	50%	50%	50%	50%	50%	50%
	総投票数に占めるシェア(⑭)	14.3%	14.3%	14.3%	14.3%	14.3%	14.3%
	1票のウェイト(⑮)	4.8%	4.8%	4.8%	4.8%	4.8%	4.8%
ECB役員会	正・副総裁+理事4名(⑯)	6	6	6	6	6	6
総投票数(⑰=②+⑦+⑫)		21	21	21	21	21	21

(資料)『The European Central Bank: History, Role and Functions(2006)』

【輪番ルールのポイント】

- ・ユーロ圏が22か国以上のケースから配分投票数に関し、「1st groupが4、2nd groupが8、3rd groupが3」となり、輪番がスタートする。
- ・投票頻度は必ず「1st group>2nd group>3rd group」である。つまり、「③>⑧>⑬」である。
- ・1票のウェイトは常に平等である。つまり、「⑤、⑩、⑮の数字は全て同じ」である。

いては、輪番制の導入が見送られてきたのである。これが 19 か国の場合、1st group が 80% の一方

で、2nd group は 78.6% (11 ÷ 14) となり、以後常に「1st group > 2nd group」の大小関係が確保されることになる。いずれにせよ、19 か国に到達する 2015 年 1 月 1 日を境に、ECB 理事会は輪番制を導入できるようになる。

但し、投票頻度に関しては 1st group が 2nd group を優越するものの、前頁表に示されるように「1 票の重み (当該グループの総投票数に占めるシェア ÷ 当該グループへの配分投票数)」は全て 4.8% で等分されており、公平性が確保されている。

～ドイツ抜きは理事会は 15 年 5 月そして 10 月～

なお、ECB は 2014 年 9 月 18 日に 2015～2016 年の輪番表 (投票権のローテーション表) を公表している (下表)。2015 年 1 月 22 日の初回会合で投票権が放棄されるのは 1st group からスペイン、2nd group からエストニア、アイルランドそしてギリシャとなる。この順番はくじ引きで決められている。注目されるドイツ抜きは理事会は 5 月と 10 月に開催され、現地メディアを中心に「ドイツの居ぬ間に追加緩和」が取り沙汰される可能性などは一応警戒したい。ただ、投票権がなくとも議論には参加できる上、役員会 6 名の中にはドイツ出身のラウテンシュレーガー理事が含まれるため、完全にドイツ色が消えることはない⁶。むしろ、現時点では役員会に出身者が居ないスペインやオランダにおいて、「1st group にも拘わらず、全く投票権がない」という状態が生まれることになる (つまり 1 月は初っ端からそういった状態になる)。この辺り、1st group としての不平不満はあるかもしれない。

いずれにせよ、輪番制導入により必ずしも全加盟国に発言権が与えられる環境ではなくなり、あ

ECB理事会における投票権のローテーション

ECB Board Members		2015年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1	総裁	ドラギ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	副総裁	コンスタンシオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	理事	ラウテンシュレーガー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	理事	クーレ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	理事	メルシュ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	理事	プラート	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第1グループ			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
7	ドイツ	パイマン	0	0	0	0	x	0	0	0	0	x	0	0
8	スペイン	リンデ	x	0	0	0	0	x	0	0	0	0	x	0
9	フランス	ノワイエ	0	x	0	0	0	0	x	0	0	0	0	x
10	イタリア	ビスコ	0	0	x	0	0	0	0	x	0	0	0	0
11	オランダ	クノット	0	0	0	x	0	0	0	0	x	0	0	0
第2グループ			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
12	ベルギー	クーレ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	x
13	エストニア	ハンソン	x	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
14	アイルランド	ホノハン	x	x	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15	ギリシャ	ストゥルナラス	x	x	x	0	0	0	0	0	0	0	0	0
16	キプロス	ゲオルガジ	0	x	x	x	0	0	0	0	0	0	0	0
17	リトアニア	バシリアウスカス	0	0	x	x	x	0	0	0	0	0	0	0
18	ラトビア	リムシエービッチ	0	0	0	x	x	x	0	0	0	0	0	0
19	ルクセンブルグ	ライニッシュ	0	0	0	0	x	x	x	0	0	0	0	0
20	マルタ	ボニチ	0	0	0	0	0	x	x	x	0	0	0	0
21	オーストリア	ノボトニー	0	0	0	0	0	0	x	x	x	0	0	0
22	ポルトガル	コスタ	0	0	0	0	0	0	0	x	x	x	0	0
23	スロベニア	ヤズベツ	0	0	0	0	0	0	0	0	x	x	x	0
24	スロバキア	マクチ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	x	x	x
25	フィンランド	リイカネン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	x	x

(資料) ECB

⁶ なお、ラウテンシュレーガー理事以外の 5 名については、ドラギ総裁がイタリア、コンスタンシオ副総裁がポルトガル、クーレ理事がフランス、メルシュ理事がルクセンブルグ、プラート理事はベルギーである。

くまで「ユーロ圏としての公平性ないし効率性」が優先される制度が始まることになる。合わせて公表が始まる公式説明 (the public accounts) と合わせ、各国利益ではなくユーロ圏の利益のための中央銀行としての色彩が一段と強まることになる。

以 上

国際為替部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌 大輔 (TEL: 03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhoobank.co.jp/forex/econ.html>

発行年月日	過去6か月のタイトル
2014年12月19日	週末版
2014年12月18日	FOMC(12月17~18日開催分)を終えて
2014年12月17日	2014年の値幅と来年への含意~「97-98年」との比較~
2014年12月16日	最近の原油安について~混同しがちな因果関係~
2014年12月15日	衆院選挙後も注目はポリシーミックスの持続性
2014年12月12日	週末版
2014年12月11日	健在だったドル建て日経平均株価「150ドル」の壁
2014年12月10日	実質賃金と交易条件そして円安の関係
2014年12月9日	今、敢えて考える円高リスク
2014年12月8日	円安倒産報道に関し思うこと~円安の是非を超えて~
2014年12月5日	週末版(ECB 理事会を終えて~expectation(期待)以上、target(目標)未達のintention(意思)~)
2014年12月4日	最近のユーロ/ドル相場について
2014年12月3日	「日本売り」に対する所感~懸念は尚早だが...~
2014年12月2日	ECB 理事会(12月4日)プレビュー
2014年12月1日	原油価格下落が円・ドル・ユーロに与える影響について
2014年11月28日	週末版
2014年11月27日	最近のドラギ発言などを受けて~金購入なども含め~
2014年11月26日	GPIFの売買余地や基礎的需給への影響などについて
2014年11月25日	解散総選挙後のアベノミクスを待ち受けるもの
2014年11月21日	週末版
2014年11月20日	豪ドル資産の軟調が目立つ
2014年11月18日	過去の円安局面と違う2つの要素~実質金利と需給~
2014年11月17日	本邦7~9月期GDP~続く所得面の悪化~
2014年11月14日	週末版(2周年を迎えたアベノミクス~何が変わったのか~)
2014年11月11日	本邦9月国際収支統計などについて
2014年11月10日	【特別版】『中期為替相場見通し』の臨時改訂
2014年11月7日	週末版(ECB理事会を終えて~正式に始まった「量」への挑戦~)
2014年11月6日	当面は温存されそうな実現不可能なポリシーミックス
2014年11月5日	ECB理事会プレビュー~現状維持を予想~
2014年11月4日	日銀金融政策決定会合(10月31日開催分)
2014年10月31日	週末版
2014年10月30日	FOMC声明文を受けて(10月28~29日開催分)
2014年10月28日	カバードボンド購入額をどう読むか?
2014年10月27日	欧州ストレステストを受けて~本場の勝負はこれから~
2014年10月24日	週末版(ユーロ圏PMIや域内のスラック(弛み)について~インフレ率が上がらない構造的背景~)
2014年10月23日	ECB社債購入を巡る3つの問題点
2014年10月22日	現時点の消費増税に対する市場の反応イメージについて
2014年10月21日	カバードボンド購入プログラム(OBPP3)などについて
2014年10月20日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2014年9月分)
2014年10月17日	週末版(米為替政策報告書について~ドル高容認か?~)
2014年10月16日	昨日の相場混乱について~ドル/円は適正な水準まで調整へ~
2014年10月15日	原油価格下落が日米欧金融政策に与える影響
2014年10月14日	G20を終えて~円とユーロで全く違う「通貨安の正当性」~
2014年10月10日	週末版(ドル/円相場の新しい節目~均衡水準は20%円安に?~)
2014年10月9日	FOMC議事要旨(9月16~17日開催分)を受けて
2014年10月8日	日銀金融政策決定会合を終えて~迫る期限の弾力化~
2014年10月7日	経済財政諮問会議(10/1)議事要旨を受けて
2014年10月6日	米9月雇用統計を終えて~経験則に照らせば利上げ?~
2014年10月3日	週末版(ECB理事会を終えて~需要不足と向き合うECB~)
2014年10月2日	短観9月調査に見る円安コストの陰
2014年10月1日	ECB理事会プレビュー~「量」を評価軸とする難しさ~
2014年9月29日	ドル高を阻むもの
2014年9月26日	週末版
2014年9月25日	安倍首相発言や最近の株高などについて
2014年9月24日	ドラギ総裁の欧州議会証言について~「量」の再強調~
2014年9月22日	ケアンズG20 財務相・中央銀行総裁会議を終えて
2014年9月19日	週末版(第1回ターゲット型長期流動性供給(TLTRO)について~厳しくなる「量」の追求路線~)
2014年9月18日	FOMC(9月16~17日)を終えて
2014年9月17日	ドル/円相場の水準感に係るヒント
2014年9月16日	スコットランド独立についての論点整理
2014年9月12日	週末版(必要なのは「円安前提の成長戦略」~心配しなくても円安は進む~)
2014年9月10日	官製相場となったユーロ相場への考察
2014年9月9日	円安を巡る財界要人発言を受けて~伸び悩む実質GDI~
2014年9月8日	本邦7月国際収支統計などについて
2014年9月5日	週末版(ECB理事会を終えて~官製相場の様相を呈してきたユーロ相場~)
2014年9月4日	9月レバトリの妥当性や今後の直投収益などについて
2014年9月3日	105円台を受けて~日米2年金利差からの推計値など~
2014年9月2日	再び迫る「市場のユーロ売りvs.SNBのユーロ買い」
2014年9月1日	ECB理事会プレビュー~最大の注目点は声明文?~
2014年8月29日	週末版
2014年8月27日	止まらない欧州金利の低下~財政が嫌なら介入のみ~
2014年8月26日	ドラギ総裁の「3本の矢」~驚きずくめのジャクソンホール講演~
2014年8月25日	イエレンFRB議長講演~「見たいように見る」相場~
2014年8月22日	週末版(ユーロ圏からの資金流出見られず~俗説に反するユーロ圏6月国際収支統計~)
2014年8月21日	FOMC議事要旨~「終わりの始まり」をどう考えるか~
2014年8月20日	本邦7月貿易収支などについて
2014年8月19日	最近のサービス収支動向~旅行収支は経常収支を支えるか~
2014年8月18日	ユーロショートカバーに備える地合い~3つの契機~
2014年8月15日	週末版(ユーロ圏4~6月期GDPなどを受けて~日本化議論は疑念を越え、予防的視点へ~)
2014年8月13日	本邦4~6月期GDP1次速報値などについて
2014年8月12日	「国際金融のジレンマ」がもたらす金融政策の通貨政策化
2014年8月11日	改めて認識する「放って置けば円安」シナリオ
2014年8月8日	ECB 理事会を終えて~曇り掛けるような口先介入は焦りの表れ?~
2014年8月7日	ハードデータに及び始めたロシア・ウクライナ問題
2014年8月6日	ECB理事会プレビュー~「最良の地合い」で現状維持~
2014年8月5日	BIS国際与信統計における欧州とロシアの繋がりについて
2014年8月4日	ユーロ下落時のユーロ円化説の考え方~認識は変わらず~
2014年8月1日	週末版(ユーロ圏7月消費者物価指数(HICP)などを受けて~ECBとしては「早く結果が欲しい」状況~)
2014年7月30日	ドル建て日経平均株価から滲み出る過熱感
2014年7月28日	ターゲット型LTRO(TLTRO)の展望とユーロ相場について
2014年7月25日	週末版
2014年7月24日	本邦6月貿易収支について